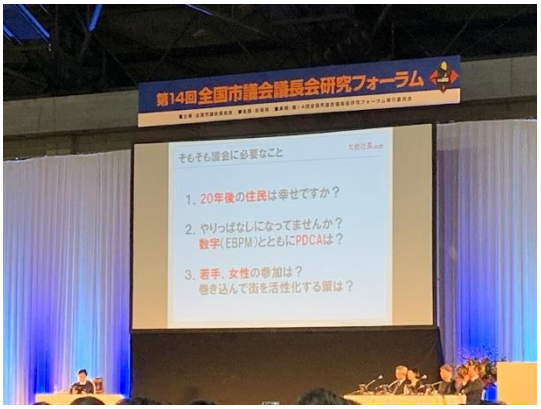
第 14 回全国市議会議長会研究フォーラム報告書

令和元年 11 月 6 日

貝塚市議会議長 真利　一朗 殿

大阪維新の会　中川　剛（報告者）



日程：令和元年 10 月 30 日～31 日

場所：高知ぢばさんセンター

【10 月 30 日】
13：20　第１部　基調講演　「現代政治のマトリクス-リベラル保守という可能性」
講師　中島岳志氏（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授）

現代政治のマトリクス
政治の仕事の問題は大きく２つの軸がある。
１配分（お金）をめぐる軸（Y 軸）。
２価値をめぐる軸（X 軸）。
１の問題は、セーフティーネットを強化して政府が国民に積極的に関わる「大きな政府」を目指すのか、もしくはリスクを個人の責任で対処、政府が極力国民に介入しない「小さな政府」を目指すのか。
２の問題は、政治が個人の価値領域について介入して行く父権主義政治か、多様な価値観を認め合う政治か。
まず政治のマトリクスとして配分をめぐる軸と価値をめぐる軸で、既存政党の歴史を振り返りつつ説明されました。

14：40　第２部　パネルディスカッション　「議会活性化のための船中八策」
コーディネーター：坪井ゆづる氏（朝日新聞論説委員）
パネリスト：髙部正男氏（市町村職員中央研修所学長）
横田響子氏（株式会社コラボラボ代表取締役/お茶の水女子大学客員准教授）
古川康造氏（高松丸亀町商店街振興組合理事長）、田鍋剛（高知市議会議長）

髙部正男氏
現在の市議会の現状認識や、状況の変化、今後のあり方、中長期的な制度課題や、早急に検討するべき事項などがあげられた。

横田響子氏
議会改革の具体的なアイデアとして
① 人口減を前提に中長期視点で町の目指す方向を議論
市の目指す方向を議論では、未来カルテという地域の状況に関する将来推計のデータをもとに２０４０年に向けて、今、何をしなければならないのかを議論する。

② ガチンコ会議を多様な人材で実施
多様な人材、平均年齢を４０歳くらいに設定し、女性を半数以上、会議に入れ込むことで開かれた活発な議論が行うことができる。

③ 経験の機会提供
議会を土日夜間など市民が参加しやすい時間帯に開く事により、議会との接触機会を増やすことで興味を持つことができる。

古川康造氏
「高松丸亀町まちづくり戦略」について
基本的な商店街は１階がお店で、２階が住居という点では同じだが、住居としての機能があるのでお店が入れ替わることができない。その点、丸亀町は、細分化してしまった土地を定期借地により土地の所有と利用を分断し、まちづくり会社が商業床を一体的にマネジメントした。
商店街の役割は連携のステージ作りであり、１００年後を見据えて計画を作る。駅前の一等地が衰退すると、行政が再開発に乗り出す。そもそも再開発を行うのは衰退した場所であり、数年で撤退してしまう。

【10 月 31 日】
9：00　第４部　課題討議　「議会活性化のための船中八策」
コーディネーター：朝坪井ゆづる氏（朝日新聞論説委員）
パネラー：　滝沢一成氏（上越市議会議員）
　　久坂くにえ氏（鎌倉市議会議長）
　　小林 雄二 氏（周南市議会議長）

滝沢一成氏
議会の見える化について説明がありました。上越市議会では様々な手法を使って、市民に対して情報を提供している。その一環として議会モニター制度も設けていてアンケートモニタ−３００人とコアモニター３０人で構成されている。
委員会の資料に状態目標、数値目標、具体的な取組み内容、各政策における３年間の数値の変化、未達成の理由が細かく記載されており、ネットで公開されている。
テーマを決めてケアマネなどの各種団体と意見交換会を行う。

久坂くにえ氏
出産時に議会運営上、様々な問題が顕在化してきた。当時は、会議規則に出産が欠席事由として規定されておらず産前、産後など期間の定めもなかった。また会議運営も夜遅くなるのは当たり前で

あり、現実的に子育てと議員の両立は困難、また、職員の超過勤務の問題にもなっていた。
家庭との両立が図れるように、休暇制度について明文化が重要で、会議規則はすぐにでも改正することができる。その事により議会の価値が高まり、多様な人材と幅広い年齢層を受け入れることができる。
予算案に対する減額修正、超党派による視察、所管事務調査を積極的に実施することにより、政策法務研究会で様々な条例を制定している。

小林 雄二氏
議会基本条例を制定することにより、条例に縛られ、柔軟な対応ができない可能性があるために制定しない選択をした。

様々な市議会の議会改革の取組みのお話を伺う中で、議員のなり手不足はさる事ながら、多様な立場、多様な年齢層の人間が議論できる議会になる必要性を改めて感じました。印象深いのは、市民が議員を目指せないのではなく、目指さないという調査結果。理由は、議会を知らないし、知りたいとも思わないと言った無関心な状況である。つまり議員の必要性、存在価値、やりがいが全く市民に伝わっていないという事です。
市民に関心を持って貰おうとする動きは、全国何処の議会も取り組んでおり、「議会報告会の実施」「議会傍聴の情報発信」「子ども議会の実施」「各種団体との意見交換会」などあります。
議員という立場は、選挙になればライバルとなり、立候補者が増えれば必然的に身分が危うくなり改革が困難になりますが、貝塚市議会の将来を考えれば、次世代を見据えて、市議会議員を目指しやすい環境整備への取組みについて議論していく必要があると考えます。